焼津市歴史民俗資料館
Yaizu ctiy Museum of History and Folkore

Museum Letter

資料館だより

110号

特集　焼津市文化財保存活用地域計画関連企画展

「DISCOVERー焼津、発見ー」

学芸員の推し
やまどんのお部屋
イベント情報

表紙写真：藤守の田遊び（第21番　猿田楽）

子ども向けイベントー PhotoAlbum ー

「ミニ門松をつくろう！」
令和4年12月27日(火)28日(水)

「Time slip in Stone Age
ー石器時代はアウトドア？！ー
令和4年10月22日(土)

「ミニワラジと
竹のおもちゃをつくってみよう！」
令和5年2月18日(土)

キッズアートプロジェクト
「私の富士山ー水墨画家になっちゃおうー」
令和5年2月11日(土)

やまどんのお部屋

「天神さん」って、みんな知ってるかな？子どもの日に飾ってあったり、「桃の節句」の時にお雛様と一緒に飾られているお人形さん！ちょっとこわもてだよねw
実はこの天神さん、やまどんのお父さんと一緒で、神様なんだ。「学問の神様」なんだよ♪
「天神さん」は、平安時代の学者、菅原道真(すがわらのみちざね)って人なんだ。人が神様になったんだね。なんでだろう？後で、学芸員さんに聞いてみるね！
お正月や5月の節句に天神人形を男の子のお祝いとして飾る風習があって、天神さんにあやかって、文武両道のたくましい男の子に育ってほしいという願いからこうした風習がうまれたんだって。すごいね！
菅原道真の姿をした人形は、土でできたものや張子製など、いろいろあるんだけど、焼津市がある志太地区では、男の子が生まれると豪華な衣装を着た「衣装着天神」を贈る風習があって、桃の節句（3月、または4月）に飾る地域があるんだ～。
やまどんも着てみたいなぁ～♪
5月7日までの期間限定で、民具コーナーで紹介しているよ。
みんなも見に来てくれると嬉しいな。

学芸員さんより

■菅原道真とは
菅原道真は、平安時代の貴族で学者さん。とても優秀だったので、当時の天皇に信頼されて右大臣になりました。
しかし、こうした出世が周りの貴族たちの反発を招き、ついに、京都から太宰府（福岡県）に左遷されてしまいます。道真は、京の都に帰ることができず、そのまま太宰府の地で亡くなりました。
道真が、亡くなった後、京の都では、雷などの天災が頻発するようになります。これを祟りだと考えた人々は、道真の霊をなぐさめるために神様としてお祀りしました。

上半期子ども向けイベント情報

お子様向けイベント

4/29（土）～5/7（日）GWスペシャルイベント
7/1（土）　親子で七夕かざり作り
7/22（土）　親子ですいとん作り
8/19（土）　みずてっぽう作り
8/26（土）　まがたま教室
7/15（土）～8/27（日）夏休みスペシャルイベント

令和5年度　企画展

3/11（土）～7/2（日）
DISOVER－焼津、発見－
第3期　川の軸　暴れ川が生んだ豊穣の地
7/15（土）～9/10（日）
へぇ～せい展
平成 × おもちゃ × こども
9/16（土）～11/26（日）
（仮）伝説と史話から探る家康像

YAIZU.HEARN.REKI.MUSEUM

焼津市歴史民俗資料館
〒425-0071　静岡県焼津市三ケ名1550
TEL　054-629-6847

＊イベントや企画展については、予定が変更されることがあります。ご了承ください。
＊イベント詳細につきましては焼津の広報・HP・Instagram・Facebook 等で随時紹介していきます

焼津市文化財保存活用地域計画関連企画展

DISCOVER―焼津、発見―

第三期　川の軸　暴れ川が生んだ豊穣の地

文化財保存活用地域計画の認定にあたり、昨年一年間を通じて行ってきた文化財保存活用地域計画関連企画展「DISCOVER―焼津、発見―」最終幕、第三期　川の軸が遂に三月十一日（土）に開幕しました。

今回、企画展を担当したのは、公共放送の人気番組にも出演経験のある、学芸員の藁科さん。見どころや、大井川の歴史をうかがってみました。

写真：大井川河口

―今回の見どころは？

今回の展示では、大井川地区の歴史や文化について「大井川」との関わりを中心に様々なモノやコトを紹介しています。

昔の大井川がどこを流れていたのか、暴れ川と呼ばれた大井川流域に暮らす人々はどんな知恵と工夫で川と共存していたのか、豊富な伏流水は何をもたらしたのか、など地元の人も意外と知らない歴史と文化を知ることができるはずです。

―今の大井川からは暴れ川とは想像できませんね。

そうなんです。大井川は今のようなしっかりとした堤防やダムができるまで何度も氾濫を繰り返していました。特に記録が多く残っている江戸時代には、およそ二年に一度のペースで氾濫していたことがわかっています。このため、この地に暮らした人々は様々な知恵と工夫で洪水から身を守っていました。

相川の川除地蔵

―そうした対策のひとつがテレビでも紹介していた、「舟形屋敷」なんですね！現在はどれぐらい残っているんですか？

「ボタ」などはっきりとした特徴を残す家は、市内で3軒ほど把握しています。

しかし、市内をまわっていると、それらしき形の家をたまに見かけます。古い調査記録などを見ると当地域の家の多くが、舟形をとっていたとされています。

舟形屋敷「ボタ」

もしかしたら、当館で把握していない舟形屋敷が他にも残っているのかもしれません。

―そうなんですね！実は…なんてこともあるかもですね。では、最後に皆さんに一言お願いいたします。

大井川地区の魅力がいっぱい詰まった企画展。ぜひお越しください！

学芸員の推し

焼津市歴史民俗資料館には、色々な分野の学芸員がいます。
専門知識を持った学芸員が推す学芸員の推し！
今回は、焼津市史編さん室で資料調査員として、市史の編さんにもたずさわった、栗田学芸員の「推し」を紹介します。

―　栗田さん、今回ご紹介していただける「推し」はなんですか？

私の「推し」は、「焼津漁業絵図」です。

―では、「推し」について存分に語ってもらいましょう！

駿河湾に面する焼津には、古くから漁業を生業とし、海と共に歩んできた歴史があります。
「焼津漁業絵図」は、焼津の鰯ケ島に生まれ、漁師一筋の生涯を送った鈴木兼平さん（1929 ～ 2003）が、焼津の漁業の様子を描いたものです。

当館では、この漁業絵図を約100点所蔵しています。そのほとんどは、厚手の画用紙に水彩絵の具を使って、細部まで丁寧に描かれています。とくに、駿河湾内での漁の様子を描いた作品では、青い海とともに、美しい富士山が描かれていて印象的です。

また、1つの漁法が明治、大正、昭和と時代ごとに描かれていて、その漁法の移り変わりを比較することができる、民俗資料としても大変貴重なものです。

兼平氏が絵図を描こうと思ったきっかけは、時代とともに変わりゆく漁の様子を記録に残しておきたいと考えたからだそうです。そのため、それぞれの絵図には、解説文が添えられており、漁の内容をより深く知ることができます。

約50年間、海の上で生活した兼平氏だからこそ描けた、在りし日の焼津漁業の記録をご覧いただければと思います。

―ありがとうございました！次回はどんな「推し」が出てくるのでしょうか。お楽しみに！

文化財保存活用地域計画とは？

全国には貴重な歴史文化＝文化財が数多く残っていますが、少子化などによる担い手不足で、これらの文化財の継承などに課題が出てきています。その一方で、文化財は地域振興や観光振興の大変重要な地域資源として注目を集めています。
このような情勢を受け、国は平成30年6月に法律を改正し、都道府県は「文化財保存活用大綱」を、また市町村は都道府県の「大綱」を勘案し「文化財保存活用地域計画」を作成できることになりました。